



発行：国土交通省北陸地方整備局
三国川ダム管理所
電話025-774-3015

ダムつ湖

vol.44

(令和4年夏号)



管理所ホームページ

～ 洪水への備えについて ～

■ ダム下流域を洪水から守るために

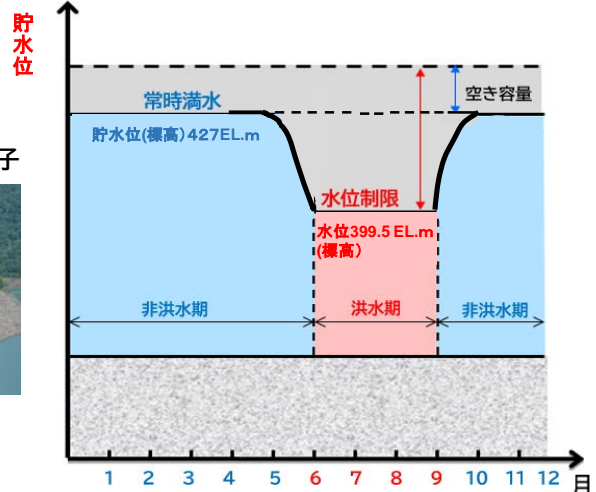
三国川ダムでは、洪水が多く発生する6月1日から9月30日は、上流からの水を溜められるようダム湖の水位を下げています。水位を下げて確保した空き容量で、ダムに流れ込む水を溜めることで、下流への放流量を調整して洪水による下流域への被害を防ぐために備えています。5月上旬から6月1日に向け、ダム湖の水位を下げる際の放流では「放流時の環境への配慮」を行っています。

■ ダムによる洪水調節（水量調整）の仕組み

貯水位(標高) 427EL.mの様子



貯水位(標高)399.5EL.mの様子



非洪水期

洪水期

10月～5月：水が不足しないよう水位を高く保つ

6月～9月：洪水に備えるため水位を下げ、空き容量を増やす

～ 放流時の環境への配慮 ～

■ ダムから冷たい水が流れないために

ダムからの放流水と雪解けにより流入したダム流入水は、水温が異なります。特に、ダム流入水は三国川は2,000m級の源流からの雪解け水が一気に流れ込み、下流の魚野川より水温が低くなる傾向です。三国川の水が冷たいと魚や農作物への影響を心配する声もあることからダムからの放流にあたって、次のような工夫をしています。

● 選択取水設備を使った放流

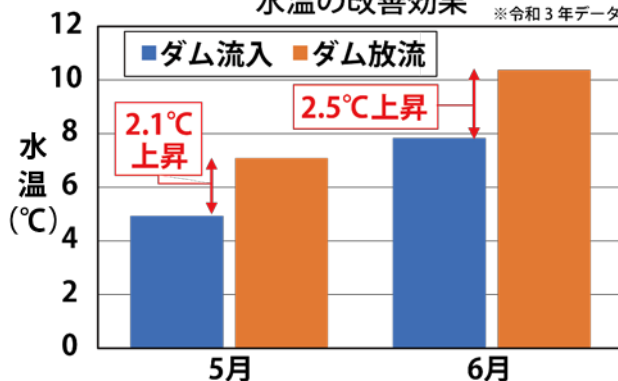
三国川の上流（黒又沢、下津川含む）からの雪解け水は三国川ダム湖（しゃくなげ湖）に注ぎ込まれ、しばらくダム湖で滞留しています。その間、春の日差しなどで暖められ、表面水の温度は流入水温より2～3℃高くなります。そのため、ダムから放流する際は「選択取水設備」を使用し、なるべく温度の高い表面水を取水し、放流するようにしています。

選択取水設備



水温の改善効果

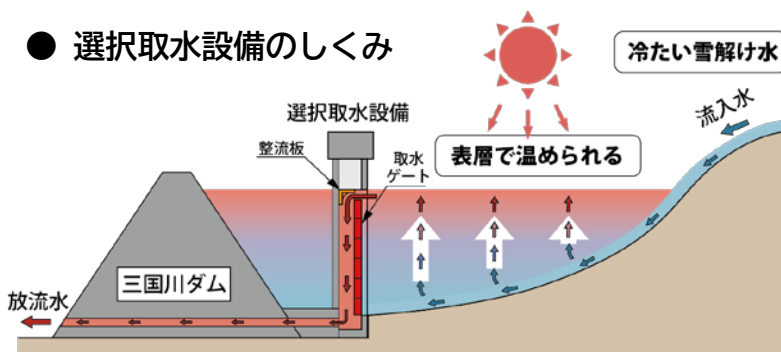
※令和3年データ



春先のダム湖



● 選択取水設備のしくみ



【参考】

「選択取水設備」から放流できる能力は最大約30m³/sと限界があります。洪水や融雪などでダムへの流入が多い場合、下層から取水する「常用洪水吐ゲート」も併用する必要があります。その時は、下層の冷たい水も混ざるの、水量も多く水温も少し低下します。

表層で温められた河川水を下流に放流

三国川ダムでは、洪水期以外にも年間を通して放流を行っていますが、その際に濁りや水温など環境に配慮して様々な工夫をしています。引き続き、ダムを管理していくなかで必要な環境調査や観測を実施してまいります。皆様のご理解、ご協力をお願いします。

～ 三国川ダム管理所からのお願い ～

■ 三国川ダムでは「洪水調節」の役割があり、洪水時は水をダムへ溜め込み放流量を調節することで、急激な水位の変動をさせないようにしています。この放流量調整により、河川氾濫等の水害防止・軽減を図っています。

■ 三国川ダムではダムに貯まった水を川へ流す際、ダム・下流域の水位に急激な上昇が想定される場合、疑似音・サイレン等でお知らせします。

■ **疑似音やサイレンが聞こえたら、危険ですので川に近づかないで下さい。**

